

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	SH スリックスイーパー
主用途	主用途として生分解性油膜分散剤
会社名	中国興業株式会社
住所	広島県廿日市市可愛11番33号
担当部門	技術グループ
電話番号	0829-31-1277
緊急連絡電話番号	同上
受付時間	月曜日～金曜日 9:00～17:00
FAX番号	0829-32-8921
整理番号	01011

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
皮膚感作性	区分1
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(肝臓、呼吸器)
環境に対する有害性	
水性環境有害性 短期(急性)	区分3

*記載の無い危険有害性は「区分に該当しない(区分外)」、「分類できない」または「分類対象外」である。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

H318 重篤な眼の損傷
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(肝臓、呼吸器)
H402 水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

P302+P352 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P310 (眼に入った場合：) 直ちに医師に連絡すること。

P314 気分が悪いときは、医師の診察/手当を受けること。

P333+P313 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。

P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】 なし

【廃棄】

P501 内容物/容器を関係法令に基づき、自社で適正に処理するか、又は廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。

GHS分類による上記注意書きに記載がない場合でも、以降の情報を参考に安全対策/応急措置/保管/廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	混合物
化学名又は一般名	生分解性油膜分散剤
成分及び含有量	洗浄成分 20～30% 水 残量
化学特性(化学式)	特定できない。
官報公示整理番号	企業秘密なので記載できない。
CAS No.	企業秘密なので記載できない。
危険有害成分	

化学物質管理促進法（PRTR法 第一種指定化学物質）

非該当 ただし改正により令和5年4月1日以降は以下の化学物質が該当
管理番号627号 ジエチレングリコールモノブチルエーテル 5%

労働安全衛生法（第57条 表示対象物、第57条の2 通知対象物）

政令番号224の3号 ジエチレングリコールモノブチルエーテル
1～10%

（第57条の2 通知対象物）

政令番号381号 トリエタノールアミン 0.1～2%

毒劇物取締法

非該当

4.応急措置

吸入した場合	・ 水で十分うがいし、新鮮な空気の場所に移す。身体を毛布などでおおい、保温して安静に保ち、必要なら医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	・ 大量の水と石鹼で付着した部分を洗う。
眼に入った場合	1 一刻も早く洗浄を始め、付着した製品を完全に洗い流す。 2 洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の傷害を生じるおそれがある。 3 まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗浄する。 4 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 5 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	1 水で口の中を洗ったり、コップ1、2杯の水又は牛乳を与えて胃内を薄めてもよい。 2 吐かせないこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	1 飲み込むと、下痢、嘔吐する可能性がある。 2 目に入ると炎症を起こす可能性がある。 3 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 4 ミストを吸入すると気分が悪くなることもある。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	・ 救助者はゴム手袋や密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
医師に対する特別注意事項	・ 現在のところ有用な情報なし。

5.火災時の措置

適切な消火剤	・ 本製品は不燃製品である。 周辺火災の種類に応じた消火剤を用いる。 粉末消火剤、二酸化炭素、散水、噴霧水、泡消火剤
使ってはならない消火剤	・ 棒状放水（本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）
火災時の特有の危険有害性特有の消火方法	・ 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガス及びヒュームを発生することがある。 1 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 2 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 3 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 4 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	・ 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項,保護具および緊急時措置	・ 作業の際には、必ず保護具（手袋、安全靴、保護メガネ等）を着用する。 皮膚に付着したり眼に入ったりしないように注意する。
環境に対する注意事項	・ 河川等に排出されない様、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	1 防水シート等で表面を被覆して飛散防止を図り回収する。 2 回収物は「13.廃棄上の注意」の項により処理をする。 3 こぼれた場合はゴム手袋を着用しウエス等でふき取るのが望ましい。 4 ビニール等の漏れない容器に入れる。
二次災害の防止策	・ 現在のところ有用な情報なし。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	1 取扱いは換気の良いところで行う。 2 容器の転倒、落下、衝撃を避け又は引きずる等の粗暴な取扱いをしない。 3 接触、吸入、飲み込んではいない。眼に入れない。衣類に付けない。取扱い後は、手を良く洗う。 4 保護具を着用すること。 5 ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。

安全取扱注意事項
接触回避
衛生対策

- 6 開封された容器は、再び完全に封をしなければならない。
- 7 冷却すると凍結するので、冬季には温度降下に注意する。
 - ・ 常温で取り扱うものとし、その際、きょう雑物の混入に注意する。
 - ・ 現在のところ有用な情報なし。
- 1 保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 2 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- 1 直射日光を避け、換気の良い、屋内で常温(5～30℃)に保管する。
- 2 ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管する。
- 3 空容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。

混触禁止物質

安全な容器包装材料

- ・ 現在のところ有用な情報なし。
- ・ 水分で劣化・腐食しない材質

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

- 1 ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
- 2 取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄の為の設備を設置する。

管理濃度

- ・ 設定されていない
(作業環境評価基準「令和2年厚生労働省告示第192号」)

許容濃度

- ・ トリエタノールアミンとして
日本産業衛生学会(2021年版)⁽¹⁾ 設定されていない
ACGIH (2011年度版)⁽²⁾ TLV 5mg/m³
- ・ ジエチレングリコールモノブチルエーテル
日本産業衛生学会(2021年版)⁽¹⁾ 設定されていない
ACGIH (2015年度版) 時間荷重平均 (TWA) 値⁽²⁾ 10ppm

保護具

呼吸器用の保護具

- ・ 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

- 1 ゴム製保護手袋。
- 2 長時間又は繰り返し接触する場合には耐薬品用のものを着用する。

眼及び/又は顔面の保護具

- 1 適切な眼の保護具を着用すること。
- 2 化学飛沫用のゴーグル及び適切な顔面保護具を着用すること。
- 3 安全眼鏡を着用する事。
- 4 撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

- 1 ビニール製保護衣、ゴム製保護衣。
- 2 長時間にわたり取扱う場合又は濡れる場合には耐薬品性の長袖作業服等を着用する。

特別な注意事項

- ・ 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

淡黄色透明

臭い

僅かな臭気

融点/凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

沸点 100℃ (水)

可燃性 (固体, 気体)

データなし

爆発下限界及び爆発上限界

データなし

/可燃限界

引火点

なし

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

7.0 (20℃)

動粘性率(動粘度)

データなし

溶解性

水に対する溶解性：任意に溶解

n-オクタノール/水分配係数

データなし

蒸気圧

データなし

密度

約1.01g/cm³ (15℃)

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

- ・ 通常の条件では安定。

化学的安定性

- ・ 通常の条件では安定。

危険有害反応可能性

- ・ 現在のところ有用な情報なし。

避けるべき条件

- ・ 40℃以上の高温、凍結。

- 混触危険物質
危険有害な分解生成物
その他
- ・現在のところ有用な情報なし。
 - ・燃焼の際には刺激性又は毒性のガス及びヒューム等が発生する可能性がある。
 - ・現在のところ有用な情報なし。

11. 有害性情報

- 急性毒性
- 1 経口 : LD₅₀ > 5000mg/kg (計算値) 「分類できない」
混合物の10%未満は毒性が未知の成分から成る。
 - 2 経皮 : LD₅₀ > 5000mg/kg (計算値) 「分類できない」
混合物の10%未満は毒性が未知の成分から成る。
 - 3 吸入 (蒸気) : データ不足により「分類できない」とした。
 - 4 吸入 (ミスト) : データ不足により「分類できない」とした。
- 皮膚腐食性/刺激性
- ・ GHS分類値判定の結果、「区分に該当しない」だが、データ不足により「分類できない」とした。
 - 1 トリエタノールアミン : 「区分2」ヒト高濃度ばく露で皮膚刺激性
 - 2 成分の一部 : 「区分2」皮膚刺激性の報告
- 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性
- ・ GHS分類判定の結果、「区分1」とした。
 - 1 トリエタノールアミン : 「区分2 A」ウサギ 眼刺激
 - 2 ジエチレングリコールモノブチルエーテル : 以下の情報より「区分2 A」に分類される。
ウサギ眼に対して中等度の刺激性および14日以内に回復。
 - 3 成分の一部 : 「区分1」重篤な眼球損傷のリスクあり
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性
- 呼吸器感作性
- ・ データ不足により「分類できない」とした。
- 皮膚感作性
- ・ GHS分類判定の結果、「区分1」とした。
トリエタノールアミン : 「区分1」ヒト アレルギー性接触皮膚炎
- 生殖細胞変異原性
- ・ データ不足により「分類できない」とした。
- 発がん性
- ・ データ不足により「分類できない」とした。
- 生殖毒性
- ・ データ不足により「分類できない」とした。
- 特定標的臓器毒性
(単回ばく露)
- ・ GHS分類判定の結果「区分に該当しない」だが、データ不足のため「分類できない」とした。
 - 1 ジエチレングリコールモノブチルエーテル : 「区分3(麻酔作用)」ウサギへの経口投与で腹臥位、一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状、腎臓傷害がみられる(10%未満の含有量)。
 - 2 トリエタノールアミン : 「区分3(気道刺激)」ヒトへの気道刺激性(10%未満の含有量)。
- 特定標的臓器毒性
(反復ばく露)
- ・ GHS分類値判定の結果、「区分2(肝臓、呼吸器)」とした。
ジエチレングリコールモノブチルエーテル : 「区分1(肝臓、呼吸器)」
ラットを用いた吸入毒性試験により肝臓重量増加、肝細胞脂肪変性、血管周囲及び気管支周囲の顆粒球白血球の細胞浸潤、細気管支化、肺重量増加がみられる。
- 誤えん有害性
- ・ データ不足により「分類できない」とした。

12. 環境影響情報

- 生態毒性
- 水生環境有害性 短期 (急性)
- ・ GHS分類判定の結果、「区分3」とした。
 - 1 トリエタノールアミン : 「区分に該当しない」
藻類 (セネデスムス) の96時間ErC₅₀=169mg/L (IUCLID、2000)
 - 2 成分の一部 : 「区分2」に分類される。
この混合物の成分10%未満については水生環境有害性が不明である。
- 水生環境有害性 長期 (慢性)
- ・ データ不足により「分類できない」とした。
- 残留性・分解性
- ・ 生分解度は高い (JIS K 3363 (合成洗剤の生分解度試験方法) 試験)。
- 生体蓄積性
- ・ 現在のところ有用な情報なし。
- 土壤中の移動性
- ・ 物理化学的性質からみて、水域、土壤環境に移動するものと推定される。
- オゾン層への有害性
- ・ 現在のところ有用な情報なし。
- その他
- ・ 現在のところ有用な情報なし。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物
- 1 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 - 2 投棄禁止。
 - 3 排水する場合は凝集沈殿、活性汚泥等の中和処理をする。水質汚濁防止法に注意する。
- 汚染容器及び包装
- ・ 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

- | | |
|-----------|-----------------|
| 国連分類 | ・ 国連の分類基準に該当せず。 |
| 国連番号 | ・ 該当なし。 |
| 品名(国連輸送名) | ・ 該当なし。 |
| 容器等級 | ・ 該当なし。 |

国内規制

- | | | |
|-------------------------|-----|--|
| 陸上輸送 | 消防法 | 非危険物 |
| 海上輸送 | | ・ 船舶安全法：非危険物（個別運送及びバラ積み運送に於いて） |
| 航空輸送 | | ・ 航空法：非危険物 |
| 輸送又は輸送階段に関する
特別の安全対策 | | 1 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
2 重量物を上積みしない。 |

15. 適用法令

国内法令：

- | | | |
|------------------|-------|-----|
| 消防法 | 危険物 | 非該当 |
| 労働安全衛生法 | 表示対象物 | 該当 |
| | 通知対象物 | 該当 |
| 毒劇物取締法 | | 非該当 |
| 化学物質管理促進法（PRTR法） | | 非該当 |
- ただし改正により令和5年4月1日以降は第一種指定化学物質に該当

16. その他の情報

【引用文献】

- 許容濃度の勧告（2021）日本産業衛生学会 産業衛生学会誌
- Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH
- ECHA (European Chemicals Agency), website "ECHA CHEM", Information on Registered Substances (2011). SDS of EU suppliers (2011)
- IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans (2006)
- 米国産業衛生専門家会議：ACGIH documentation (2006)
- EC理事会指令「67/548/EEC」の付属書I「危険な物質リスト」
- 原材料SDS

【参考資料】

- 安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルMSDS情報」
- 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(nite)「GHS関連情報」
- 日本規格協会(JIS) JIS Z 7252：2019「GHSに基づく化学品の分類方法」
- 日本規格協会(JIS) JIS Z 7253：2019
「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）」
- 一般社団法人 日本化学工業協会「GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針 2012年6月」

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱事業者提供されるものです。取扱事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。また、記載されている情報は改定日時点での情報を基に作成したものであり、その内容について保証するものではありません。各種法令改正や製品情報の改訂により今後も内容が変更されますので、販売・流通事業者は、取扱事業者に対し、常に最新の安全データシートを提供するようお願いします。